

2009年度 東京大学 前期 世界史B

第 1 問

中世西欧で超越的権威であった教皇権は、王権の伸張と宗教改革により揺らぎ、16世紀には王権が教権を排除する形で主権国家が成立した。英ではヘンリ8世の首長法により国王が宗教面においても絶対権をもつ英国教会が成立。統一法で信仰のあり方を国民に強制し、旧教を弾圧する一方、審査法で国教徒を優遇した。仏ではユグノー戦争を收拾したアンリ4世が信教の自由を保障したが、王権神授説を奉じるルイ14世のナントの王令廃止によって旧教が強制され、啓蒙思想家の批判を招いた。三十年戦争後のドイツでは領邦教会制が確立して領邦君主や都市にのみ、宗派の選択権が認められた。イスラーム世界では、シャリーアの優位のもとで政教一致体制が取られたが、ブワイフ朝以後はカリフ権が名目化し、スルタンなどが政治権力を握った。オスマン帝国では、スルタン権力のもとで異教徒の宗教別共同体ミットがジズヤ徴税を請け負う代わりに、信仰の自由が認められた。一方、アラビア半島では政教一致への回帰を主張するワッハーブ派が台頭した。東アジアでは中国皇帝の儒教的専制体制の下で、儒・仏・道の三教が共存した。チベット・モンゴルの諸民族では、チベット仏教の転生観に基づき、16世紀以降、黄帽派の教主ダライ=ラマの権威が確立した。満州族が建てた清朝は、儒教的皇帝観念を受け継ぐと同時に、チベット仏教を保護し、チベット・モンゴルなどを藩部として理藩院による間接統治を行った。

(600字)

第 2 問

問 1

(a)有力農民を中心に軍事・経済的要地に移住し形成された集住型と、先住民を支配して形成された征服型という二過程で成立した。

(59 字)

(b)ギリシア語やオリンポス 12 神の信仰，オリンピア競技などの祭祀を共有。自らをヘレネスと称し，異民族をバルバロイと蔑視した。

(60 字)

問 2

(a)殷王は亀甲・獣骨を用いて神意を占う祭政一致の神権政治を行い，氏族を単位とする邑の連合の盟主として絶大な権力を行使した。

(60 字)

(b)犬戎の侵入で鎬京から洛邑へ遷都した後は，封建制度が動揺し，周王の権力は衰え，有力諸侯が尊王攘夷をとなえて覇権を争った。

(60 字)

問 3

(a)十字軍以降，ヴェネツィアなど北イタリア諸都市が銀や毛織物を輸出し，ムスリム商人から香辛料や絹織物など奢侈品を輸入した。

(60 字)

(b)ミラノを中心とするロンバルディア同盟は教皇と提携し，イタリア政策を推進する神聖ローマ皇帝に勝利し，自治権を獲得した。

(59 字)

第 3 問

問 (1) 白蓮教徒の乱

問 (2) バブーフ

問 (3) カルボナリ (炭焼党)

問 (4) デカブリスト (十二月党員) の乱

問 (5) K・K・K (クー=クラックス=クラン)

問 (6) 全琿準

問 (7) 中国同盟会

問 (8) 全インド=ムスリム (イスラーム教徒) 連盟

問 (9) ベトナム光復会

問 (10) タキン党